

2025 年度(令和 7 年)

事業計画書

社会福祉法人 福寿会

目次

1	法人理念.....	2
2	基本方針.....	3
3	理事会及び評議委員会の開催.....	4
4	施設概要.....	5
5	介護部門.....	6
	(1) 入所・住居系.....	6
	① 特別養護老人ホーム.....	6
	② ショートステイサービス.....	9
	③ グループホームアクール.....	10
	④ 軽費老人ホーム.....	10
	⑤ サービス付き高齢者向け住宅.....	10
	(2) 通所系.....	11
	① デイサービス.....	11
	(3) 訪問系.....	12
	①訪問介護ステーション.....	12
	②訪問リハビリテーション.....	12
	(4) 居宅介護支援事業所.....	13
6	医療部門.....	14
	(1) 平城園診療所.....	14
	(2) あきしの整形外科クリニック.....	14
7	保育部門.....	15
	(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園.....	15
	(1) 福寿会マミーズ保育園.....	17

1 法人理念

【法人の基本理念】

1. その人の人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

【法人の基本方針】

1. 地域福祉の拠点として、地域から信頼される法人を目指します。
2. 利用者から評価される安心できる質の高いサービスを提供します。
3. 人材確保と育成に取り組み、職員の質の向上に努めます。
4. 各種制度や法改正の意思や方向性を見極め、中長期的視野に立った安定した経営を構築します。
5. 財務情報公開、行政の認証制度、苦情解決等の透明性の確保に努めます。

2 基本方針

令和6年度のテーマは地域貢献とし、地域交流を通したご利用者の生活の質向上、地域循環を意識した経営基盤構築、地域貢献を通した人材育成に注力しました。

地域交流を通したご利用者の生活の質向上については、地域向けの防災イベント、デパ地下キッチンカーを招いたマルシェ等を開催しました。

地域循環を意識した経営基盤構築については、ボトムアップで課題抽出が出来る組織を目指し予算管理体制の構築を進めました。

地域貢献を通した人材育成としては、接遇向上を目的としマナースタンダードを作成し、接遇向上委員会を立ち上げました。また、初任者研修講座開講等、研修の機会を増やしました。

年度を通して各種取組を進めてきましたが、地域貢献としては道半ばです。同じ趣旨の取組を続けつつ、経営基盤の強化、人材育成に更に注力し法人としての土台作りを進める必要があると痛感しました。その為、令和7年度のテーマは、経営基盤の強化、人材育成とします。前年度テーマにも含まれるワードになりますが、より絞ったテーマとすることで、目的を明確にし地域に貢献しうる法人になるための土台作りに集中する年度とします。

3 理事会及び評議委員会の開催

(1) 2025年度における理事会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2025年6月	2024年度 事業報告・決算報告
2026年3月	2025年度 補正予算 2026年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

(2) 2025年度における評議員会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2025年6月	2024年度 事業報告・決算報告
2026年3月	2025年度 補正予算 2026年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

(3) 選任解任委員会を、次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
適宜開催	評議員の選任及び解任

(4) 監事による監査

- ① 監事は理事会に出席し、理事会の運営状況、法人の財産の状況を監査する。
- ② 監査報告書を作成し理事会及び奈良市長に報告する。

4 施設概要

施設 1

名称	平城園	住所	奈良市秋篠町 1567
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホーム平城園	
ショートステイ		平城園ショートステイ	
グループホーム		グループホームアクール	
サービス付き高齢者向け住宅		ヴィラ秋篠	
デイケア		あきしの整形外科デイケアセンター	
訪問介護ステーション		平城園ホームヘルプステーション	
訪問リハビリテーション		平城園訪問リハビリテーション	
居宅介護支援事業		平城園在宅介護支援センター	
内科診療所		平城園診療所	
整形外科診療所		あきしの整形外科クリニック	
企業内保育所		福寿会マミーズ保育園	

施設 2

名称	ならやま園	住所	奈良市山陵町 1085
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホームならやま園	
ショートステイ		ならやま園ショートステイ	
デイサービス		ならやま園デイサービスセンター	
訪問介護ステーション		ならやま園ホームヘルプステーション	
居宅介護支援事業		ならやま園居宅介護支援事業所	
軽費老人ホーム		ケアハウス ニューライフならやま	

施設 3

名称	グレイス福寿	住所	奈良市山陵町 1485
実施事業		事業所名	
サービス付き高齢者向け住宅		グレイス福寿	
デイサービス		奈良デイサービス	

施設 4

名称	登美ヶ丘マミーズ保育園	住所	奈良市中登美ヶ丘五丁目 34-1
実施事業		事業所名	
保育所型認定こども園		登美ヶ丘マミーズ保育園	

5 介護部門

(1) 入所・住居系

① 特別養護老人ホーム

a 特別養護老人ホーム平城園

令和6年度のテーマは「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」「防災対策の推進」であった。

外国人材の雇用は初年度でもあり反省や学びを教訓として、令和7年度は指導力や育成力の向上に取り組む。また、新人事制度に基づいた、人事評価や人材育成を定着させ、引き続き「働き甲斐のある職場づくり」と「人材育成」の浸透に取り組んで参る。

➤ 介護部門（従来型特養）

- 豊かな生活を提供できる体制づくり
各フロアや施設全体での行事とレクリエーションの推進。
I C T機器による業務効率化。
- 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり
新人事制度に基づく人事評価、人材育成の定着。
外国人職員に対する指導・育成力向上。
- 災害・感染症に対応できる体制づくりの強化・計画の充実
災害・感染症B C Pの周知と実地訓練の計画的実施。
有事の福祉拠点と成るべく、地域との連携強化。

➤ 介護部門（ユニット型特養）

- 職員全員がユニットケア、暮らしの在り方を理解し、環境づくりに取り組み、入居者皆様の個別性を活かしながら、安全に生活が送られるよう目指す。
- 入居者の視線を大切にしながら、住み慣れた環境、寛げるスペースを創る。
- できること、強みを活かし、役割づくりを考え、実践する。
- 安全、安心な生活とその支援継続の為の福祉機器活用と、介護技術の習得。

➤ 看護部門

- 利用者の健康管理、異常の早期発見を行い、適切な医療が提供できるよう努める。
- 平常時の感染症対策を徹底し、感染拡大防止するに努める。
- 利用者・家族に安心して頂ける看取り介護の提供が行えるよう、多職種との連携を図る。

- 機能訓練
 - 利用者及び家族の意向を尊重し、主観的及び客観的評価を基に個別機能訓練計画書を作成する。
 - 身体機能の維持・向上の為に科学的根拠に基づいた機能訓練を実施する。
 - 個々の日常生活動作能力に応じた介助を行い、残存能力を發揮する事で身体機能の維持・向上を図るよう、介助方法の指導・伝達を行う。
 - 多職種連携及び相互に協力しやすいよう、他部門・他部署と良好な関係を築く。
 - 体動が困難な利用者及び看取り介護の利用者には、関節拘縮・褥瘡予防を図り、安楽な姿勢で過ごしていただけるようポジショニング等の環境調整を行う。

- 栄養管理部門
 - 施設は利用者の生活の場である事を意識し、家庭的で各個人の嗜好も考慮し、旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食、好み食の実施により季節の移り変わりや、生活の中に変化と楽しみのある食事を提供していく。
 - 食中毒やノロウイルスの予防と集団感染時の対応を強化し、衛生管理を徹底する。
 - ミールラウンドを行うことで、ご利用者様の健康状態を把握し、個々に見合った栄養ケア計画の作成と食事の提供を行う。
 - 非常食について、すべての職員が内容を把握して、いざという時に活用できるように備える。
 - 子どもの成長には個人差があるため、家庭と連携し、食事を通して心身の健康な発達を促す。

- ボランティア部門
 - 令和6年度はボランティアを受け入れ、継続した活動を実施することができた。利用者の日常の中に楽しみや癒しの場となるサービスを継続できるように努める。

- 介護サービス支援室
 - 利用者にとって安心・安全な生活を第一に支援を行う。
 - 行事・レクリエーションの機会を創出し、施設生活の質の向上を目指す。
 - 委員会活動や諸研修への参加の促進により、職員の質の向上を目指す。

b 特別養護老人ホームならやま園

令和6年度においても新型コロナウイルス感染症の流行がみられた。各種感染症においては、過去の経験を活かして引き続き、予防対策の徹底に努めていき利用者の安全・安心の確保を目指す。様々な制限も緩和され、日常を取り戻しつつある。今年度は、人と人のつながりを意識して、生活の場を豊かに彩れるような生活の援助に取り組んでいきたい。

➤ 介護部門（従来型・ユニット型特養）

- 認知症ケアの充実。心の思いに寄り添った援助を目指し、生活の場として質の向上・過ごしやすい環境作りを目指す。
- 人材育成・研修の充実。施設内外の研修の充実を図り職員のスキルアップに繋げる。働きたい職場・働きやすい職場作りを目指し、介護の仕事への魅力ややりがいに繋げることで、人材の安定を目指す。
- IT機器の活用。人員不足の中で、介護職員の負担軽減、業務の効率化を図るとともに、利用者の安全を守る。
- 地域の防災拠点としての役割を果たす。災害時を想定した訓練の実施。対応の確認、周知を行う。

➤ 看護部門

- ご利用者の尊厳を守り、安心できる医療と看取りが提供できる
- 1年を通して感染予防行動が取ることができる環境整備に努める
- 職員のメンタル・フィジカルヘルスを守る

➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を尊重し多職種連携の基、その人らしい生活が送れるよう、また安全安楽に過ごせるよう「身体機能」「精神機能」の維持・向上を図る。
- 個々の日常生活動作能力の維持・向上が図れるよう、介護士と連携し「生活リハビリ」のプランを決定する。
- 多職種連携を行い介護業務支援ソフトを使用し「個別機能訓練計画書」を作成する。また、情報共有も行っていく。
- 主観的及び客観的評価を行い科学的根拠に基づいた個別機能訓練を行う。
- 状況に応じて「ポジショニング・シーティング」・「生活リハ・個別機能訓練内容」・「福祉用具」の見直し・変更を行っていく。
- 個々の日常生活動作能力に応じた介助を行い、残存能力を発揮する事で身体機能の維持・向上が図れるよう介助方法の指導・伝達等を行う。

➤ 栄養管理部門

- 栄養ケアマネジメントの実施や療養食の提供により、多職種協働で利用者の健康を維持して頂けるよう取り組む。個々の利用者の嚥下状態や身体状況に適した食事や嗜好を考慮した食事の提供に努める。
- 食材料費や人件費の高騰により給食業務が厳しい状況である。給食業務を見直し、継続して喜ばれる食事の提供に努める。家庭的で季節感のある食事や、日常生活に変化や楽しみを持って頂けるよう、行事食や誕生日食の提供を行う。
- 食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供に努める。
- 非常災害時に備えて非常食を使い捨て容器と共に3日分備蓄し、無駄なく入れ替えを行う。非常災害時に全職員が活用出来るように備える。

➤ ボランティア部門

- ケアハウスやデイサービスでのイベントや移動スーパーに関しての手伝い、慰問の受け入れや利用者のおやつ販売など、利用者の癒しになる援助を行っていききたい。

② ショートステイサービス

a 平城園ショートステイサービス

前年度に引き続き、利用者の在宅生活の継続と家族の負担軽減の為に、安心して利用いただけるようサービスレベルの向上に努める。安定した稼働の為、引き続き各在宅支援事業所との連携を密にしていく。

- 入居者同様に、楽しみをもってご利用頂けるようサービスを提供していく。
- 利用者・家族と信頼関係を維持し、個々の要望や不安点に対応していけるよう都度サービスの提供方法について検討する。
- ならやま園ショートステイサービスと連携を図り、常に安定したサービスの提供を行う。

b ならやま園ショートステイサービス

令和6年11月よりショートステイの受け入れを再開した。引き続き安定した稼働と、サービスの向上を目指す。

- 職員の安定的な確保、人材育成、介護サービスの質の向上。
- 各事業所への営業活動を行い、新規利用者の受け入れ、継続利用。
- 安心・安全にご利用頂ける、利用者目線で過ごしやすい環境・空間づくり。
(令和6年度：居室の整備、ウォシュレット機能付きのトイレに変更)
- 平城園ショートステイサービスと連携を図り、相互に協力していく。

③ グループホームアクール

令和 7 年度には開設 3 年目を迎えるが、深みのある認知症ケアの充実、サービスの質の向上を図るとともに、地域に根付いたホームづくりを引き続き目指したい。

- 認知症ケアの充実
 - 質の高い認知症ケアを普及させることを目的とした外部研修（認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修）受講者を中心とし、ご利用者に寄り添った個別支援、専門性をもった認知症ケアの提供に努める。
 - 職員個々のスキルアップの機会（施設内外における研修や会議、個別面談等）を確保することで、サービスの質の向上に努める。
- 地域に根付いたホームづくり
 - 運営推進会議を通して、ホームの情報を発信するとともに、地域とのつながり、特に自然災害発生時における地域との連携体制の構築に努める。
- 安定した施設運営を目指す
 - 令和 6 年 8 月より 2 フロア稼働開始している。2 ユニットの安定稼働（18 床の満床）を目指す。

④ 軽費老人ホーム

ケアハウス ニューライフならやま

従来からのならやま園特養との連携でのメリットは残しつつも、住宅部の他の事業所との連携を深め、「高齢者の住まい（住宅）」として地域や入居者に喜ばれる事業所を目指す。

- 安定した運営
 - 空室が出た際のフォローアップ体制を住宅部一体となって構築する。
 - 定期的な営業体制を作る。
 - 感染時等における独立した BCP。
- イベントや余暇活動等ご入居者に還元できる機会を増やす
 - 個別又は少人数での対応の増設。
 - 季節行事、個別外出、住宅部合同イベントなどの機会を増設。

⑤ サービス付き高齢者向け住宅

a サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠

- 人材育成
 - 事業所としての新陳代謝を高めるためすべての職員の持ち場や立場、役割を再構築する。
 - 営業や入所契約関係における後任の育成のためチャレンジできる環境を整え、年度内に現任者から実務を委譲する。
- 入居者の満足度向上

- 新たなイベントや提供方法について住宅部として創出する。
- 送迎等については勤務者状況により機会が左右されることの無いように住宅部として効果的で効率の良い提供方法を確立する。
- 運営懇談会の年一回開催を導入する。
- 予算に対する意識付け
 - 人件費について、業務の見直しを含め効果的な配置を検討し実行する。
 - 事務費の支出を見直し必要なメンテナンスに充当する。

b サービス付き高齢者向け住宅グレイス福寿

- 安定した運営とサービスの向上
 - 早期の満床を目指し計画的な営業活動を実施する。
 - 地域にアピールできる機会（内覧会や説明会）を定期的にする。
 - 営業や入所契約関係における後任の育成は上記に並行して行い、後任者がチャレンジできる環境を整え、年度内には現任者から実務を委譲する。
 - オープン時に掲げている各サービスが滞りなく、ご入居者に届けられるように部署として体制を整備する。
 - ご入居者の声を大切に早々に運営懇談会を設置する。
- 住宅部本部機能の整備
 - 早々に住宅部としての本部機能を整備する。
 - 住宅部3施設からそれぞれ代表者を集め、定例会を実施することで、部としての連携を高める。

(2) 通所系

① デイサービス

a 奈良デイサービスセンター

- 営業力の強化

外部の介護支援専門員からの紹介率10%UPを目指す。その為の営業や見学会を実施し奈良デイサービスセンターの取り組みをアピールすると共に福寿会の他事業所との連携についても伝えていく。
- 保育・住宅部との交流

定期的な会議を設けお互いのご利用者が満足できやりがいや楽しみを持てる企画を行う。ご家族様へも広報誌やブログ等で取り組みを伝える。
- BCPを意識した業務や人材の育成

様々な場面において緊急時の判断や連携・連絡等、ご利用者へ安心した支援が継続して出来る業務体制及び対応できるスタッフを育成する。研修への参加、役職の業務分散を進める。

- b ならやま園デイサービスセンター
 - 利用者やご家族、ケアマネジャーとの情報共有、サービスの見える化を行いご利用者の信頼獲得、より良いサービス提供を目指す。
 - 新規利用者の獲得にむけて魅力の発信、営業・広報活動に力を入れ地域の方やケアマネジャーにならやま園デイサービスを知ってもらう。
 - デイサービスに来ることで充実した時間、楽しみや生きがいとなるようなプログラムを設定しサービス提供を目指す。
 - SDGS を意識してペーパーレスや節電、コスト面等を考える。

- c あきしの整形外科クリニックデイケアセンター
 - 自立した在宅生活を可能な限り継続して営む為に必要な身体機能・能力の維持向上を図る。
 - 利用者様やその御家族様、地域の事業所へ情報を発信することにより本事業の認知度を上げ利用に繋げる。
 - 医師・介護支援専門員・関連サービス事業所と連携し、利用者様の自立した日常生活と社会参加を促進する地域包括ケアの一員となる。

(3) 訪問系

①訪問介護ステーション

- a 平城園ホームヘルプステーション
 - 職員の接遇研修に注力し、利用者の個別のニーズに応じた質の高いサービスの提供に努める。
 - 訪問介護員の高齢化に伴い、SNS 等を活用し新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。
 - 奈良市の子育て支援事業「エンゼルサポート事業」の受託により子育て支援において地域に貢献する。

- b ならやま園ホームヘルプステーション
 - 地域の中で利用者本位の、より質の高いサービスが提供できるようヘルパー一丸となって努める。
 - 訪問介護員の高齢化に伴い、新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。

②訪問リハビリテーション

- a 平城園診療所訪問リハビリテーション
- b あきしの整形外科クリニック訪問リハビリテーション

利用者及び家族の意向を尊重し、可能な限り自立した在宅生活を営む為に必要な身体機能・能力の維持向上を図る。

 - 利用者様の主観的及び客観的評価に基づいた適切な目標設定・計画を行う。

- 上記目標・計画に基づいた訓練を行い、QOLの維持・向上に努める。
- 医療保険によるリハビリが終了される患者様やその御家族様からのリハビリに対する需要を受け、本事業又は必要なサービスの提案・説明を丁寧に行う。
- 医師・介護支援専門員と連携し、地域包括ケアの一員として利用者の日常生活の自立と社会参加を促進する。

(4) 居宅介護支援事業所

a 平城園在宅介護支援センター

- 令和7年度の目指すべき方向性
今年度は令和6年度において積極的に外部研修へ参加し、得た知識を生かしてさらに質の高いケアマネジメントを提供し、各地域包括支援センターとの連携を深めながら、地域の信頼を維持し、選ばれる居宅介護支援事業所の介護支援専門員として、利用者本位の支援を継続する。と同時に、介護支援専門員各自のメンタルヘルス対策を充実させ、心身ともに健康でやりがいを持って働き続けられる環境を維持する。
- 地域包括支援センターとの連携を通して地域包括ケアシステムの構築に協力する。
- 医療との連携をさらに深めることで、入退院時の情報連携を密におこない、自宅から病院、病院から自宅あるいは施設への移行を利用者が安心してスムーズにおこなえるよう努める。

b ならやま園居宅介護支援事業所

引き続き、事業所加算Ⅱの算定要件に見合った居宅介護支援を積極的に行っていく。又、ヤングケアラー・障がい者・生活困窮者・難病患者等、他制度に関する知識を更に深めながら重層的支援への対応を心掛け、行政・地域・医療・介護の連携の下、利用者が適正にサービスを選択できる利用者本位の支援に努める。

- 地域包括支援センターと連携し、支援困難ケースの積極的な受託・対応を継続する。
- 業務の効率化および情報共有に努め、居宅介護支援事業所としてのケアマネジメントの質の向上を目指す。
- 公正中立なサービスの選択および情報の開示等により、居宅介護支援の適正化を図るとともに、利用者の意思決定支援を尊重し利用者本位の支援に努める。
- 認定調査業務の受託（ケアマネ1人当たり月4件を目指す）

6 医療部門

(1) 平城園診療所

利用者の視点に立った気配りができる、信頼される医療を提供します

- 法人事業所の利用者と職員の健康管理及び疾病治療・予防に努める。
管理医師、診療所看護師と特養看護師が連携し、利用者の日常的な回診を実施し、重症者への対応は関係医療機関と連携を図りスムーズな対応を行う。各種ワクチン接種などの感染予防、定期健康診断の実施による疾病の早期発見に努める。職員の健康管理について、産業医と衛生管理者との連携を図り、法人全体の衛生向上に貢献する。

(2) あきしの整形外科クリニック

- 地域の救急・整形外科診療のニーズにこたえるとともに高齢者の視点に立った信頼される医療の提供を目指す。
- 受診してよかったと思っただけけるよう患者さんの視点に立った医療を提供する。
- 開設予定のデイケアと連携を図りながら高齢者の健康寿命を援助する。
- 介護認定者のリハビリの医療と介護のすみわけを進める。

7 保育部門

(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園

令和7年4月から1号認定児を受け入れる。保育所と幼稚園の両方の機能をあわせもち就学前の教育・保育を一体的に行うことと地域の子育て支援の場の提供を行うことを目的とする。こども園に移行するにあたりこれまで以上に全職員一丸となって保育の質の向上を図り、全ての子どもが健やかで安全・安心に過ごし成長できる場になるように努める。人生の根っこを育てる乳幼児教育の重要性を再認識し、笑顔いっぱいのこども園づくりに努める。

▶利用定員

年齢区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1号	-	-	-	5人	5人	5人	15人
2号・3号	9人	12人	12人	19人	19人	19人	90人
合計	9人	12人	12人	24人	24人	24人	105人

▶保育理念

心身の健全な育成を図り、豊かな「生きる力」
何でも自分でやれる 考える「創造力」
優しい思いやりのある「温かい心」 を育てる。

▶保育内容

① 養護と教育を一体化した保育

- ・乳児は、育児担当制にし、愛着形成を基盤とした個別対応を行い、一人ひとりの発達の特성에応じて丁寧な保育に努める。
- ・3・4・5歳児は、幼児が主体的に遊ぶための環境構成や援助の在り方を探る。

②安全・安心の園

- ・子どもの命を守ることを最優先にする。
- ・園内の安全点検を毎週1回実施し、危険個所の把握と改修を迅速に行う。
- ・毎月1回の避難訓練を行い、災害時・緊急時・不審者対応に冷静かつ迅速に行動できるようにする。

③食育・給食

- ・農園で野菜を育て、収穫野菜は給食で頂く。「食べ物への興味」と「感謝」の気持ちを育む。

④カリキュラムの特色化

- ・現状のカリキュラムを維持しつつ、さらに運動能力の向上、外国語活動の強化、情操教育の導入に取り組む。外部の専門講師を招聘し、英語教室・体操教室・サッカー教室・お話の会を行う。

- ・課外保育としての放課後イングリッシュスクール・ダンス教室・スポーツ教室の継続と見直しを行う。

② 保育行事

- ・作品展や運動会、発表会は子どもが考えてつくっていく子ども主体の行事に努める。

▶園児募集対策

- ・園活動内容をホームページで敏速にアップし、広く園の活動を知らせる。
- ・園見学者を随時受け入れ、園の保育・教育や特色をアピールし、入園に繋がるように努める。
- ・保育を充実させ、保護者の良い口コミを増やし、1号認定の園児の志願者に繋げる。

▶子育て支援

- ・一時預かり児の受け入れ、園庭開放・マミーズ広場（親子の集い）の定期的な実施。

▶地域交流

- ・法人高齢者施設との交流
- ・国際中学校の保育実習、国際高校家庭科クラブとの交流
- ・地域のイベントへの積極的参加

▶年間会議・研修

- ・職員会議（月1回）、給食会議（月1回）、リーダー会議（月1回）
乳児部会・幼児部会（月1回）

▶保育者の資質向上

- ・研究保育（年間8回）や職員研修の計画的な開催及び外部研修への参加を通して職員の指導力の向上を図る。

▶保健衛生

- 定期健康診断（年2回） 歯科検診（年1回） 眼科検診（年1回）
職員定期健康診断（年1回） 検便検査（年12回） 身体測定（年12回）

(1) 福寿会マミーズ保育園

従業員の働き方に応じた柔軟な保育サービスを提供し、企業連携先のお子様に対しても同様のサービスを提供する。又地域枠を設け、積極的に地域の子どもを受け入れ定期利用の空き定員を利用した、一時預かりサービスを行う。

- 季節を通して安全で楽しい保育が提供できるようにする。
- 園外散歩を多く取り入れ、季節を通して安全で楽しい保育を提供する。
- 小規模ならではの家庭的でゆったりとした雰囲気の中、支援が必要な子どもには、成長に応じた出来る限りの支援を提供し、子ども一人一人に寄り添った保育を提供する。
- 異年齢交流を中心とした、縦割り保育を取り入れ異年齢に対する思いやりと、社会性、協調性を育む。
- 施設交流や、手作り玩具を通じて「ありがとう」の気持ちとお年寄りを敬う気持ちを育む。
- 保護者の育児負担をサポートしていけるように、保護者が気軽に相談とお預かりができる環境をつくる。

■ 年間行事

	主な行事		主な行事
4月	入園	10月	マミーズ祭り
5月	子どもの日・内科検診・個人懇談	11月	個人懇談・内科検診
6月	歯科検診・歯みがき指導	12月	クリスマス・お餅つき
7月	七夕・水遊び	1月	お正月
8月	不審者訓練（園外散歩時）	2月	節分・不審者訓練
9月	施設交流（デイサービス訪問）	3月	ひなまつり